

「私と奈良そして校友会」

(その1)

猿沢の池のすぐ近くに「奈良大文字」（当時、大文字屋）という旅館があった（現在はモータープールになっている）。ここが私の記憶にある奈良で最初に宿泊した場所である。昭和24年中学2年の秋の遠足で一泊した場所だ。神戸の学校から1日目法隆寺、2日目大佛殿、若草山等の見学であった。1日目、国鉄（現JR）法隆寺駅から、田圃ばかりの道を歩いて行ったが、回りに何もなく、駅からすぐに五重の塔が一望出来たように思う。2日目の大佛殿や若草山で写した集合写真は、今もアルバムに残っている。他には、小学校時代に母の知己を訪ね、桜井の方にも、又あやめ池遊園地へも行ったことはあるが、これといった思い出は浮かばない。この様に今迄あまり来たことがなかった奈良に20年後に居住することになるろうとは思ひもしなかった事である。時は移り、昭和40年代になり、学園前住宅地を知り、町の環境等、非常に魅力を感じていた。そして昭和45年3月30日、阪急電鉄神戸線園田（そのだ）より、縁あって現在の場所（奈良市西登美ヶ丘、当時、奈良市二名町）に居住することになった。時恰も、日本万国博覧会が千里丘陵で開幕された直後（昭和45年3月14日開幕）であり、近鉄奈良線が難波迄乗り入れたのもこの時だ。あれから43年が経過し、これ迄の人生で一番永く居住している場所にもなった。もうすっかり、奈良県人に成りきっている、この頃である。

(その2)

ここに一枚の古い名刺がある。「奈良トヨタ自動車株式会社 常務取締役 菊池久武」これは昭和33年10月26日（私が社会人になった年の秋）大阪中之島中央公会堂で行われた明治大学全国校友大阪大会の当日、たまたま宴席で同じテーブルの席になった時に頂いたものである。奈良から来ておられたであろう先輩に長時間色々なお説を拝聴することが出来た。この方が若き日の菊池先輩であり、後に奈良県支部長をされた方だったので。その後私が第6代支部長をさせて頂くことになるろうとは、これも又夢にも思わなかったことである。菊池先輩とは直接お会いしたのは、これが最初で最後であり、もっと直々に薫陶を受けたかった方だと、誠に残念に思います。

私が支部長をさせて頂いたのは、平成13年5月より平成17年5月迄の2期4年間ではありますが、この間「校友会組織の改革」と、それに伴う「校友会会則の改正」という二つの大きな変革がありました。「校友会組織の改革」については、これ迄の任意団体的なものであった校友会が「校友会の発展と活性化」「財政基盤の確立」「大学との連携強化を図れる組織体制」の三つの柱からなる改革がなされたのです。改革の大きな柱とは、一言で言えば大学を賛助し、支援するための組織に変わったのです。支部組織も首都圏を除き1県1支部として国内54支部、外国（韓国、台湾）2支部の計56支部に編成され、卒業生全員が居住する支部に所属し、校友会活動に参加出来る体制となったのです。今一つの「会則の改正」は新しく出来た本部会則に準じ各支部のものを作成することになり、奈良県支部のものは従来のもので出来るだけ生かし、又奈良県の現状に合うように作成をしました。

これが現在の会則です。

さて、私が初めて奈良県支部の定時総会に出席させてもらったのは、平成3年天理観光ホテルでの板橋知義先輩が支部長に就任された時の総会であり、大学から島田総長が出席されており、板橋支部長が自己紹介で「バレーボール学科出身」と言われたことに対し、島田総長が「現在はバレーボール学科というのはない」と言うような遣り取りがあったことを覚えております。屋上で写真撮影もあり、大変和やかな雰囲気であり、こじんまりとした家族的ないい会だなあと考えたものです。このような思いから支部長をお引き受けして先ず取り組んだことは、奈良県のような人数の少ない支部は、人と人との繋がりが特に大切だと考え、定時総会通知を県内全校友に発送を試みました。

そして迎えた初めての定時総会（平成14年6月22日）では、奈良県の校友47名の出席を頂き、来賓を含め総員63名で賑々しく総会が出来たことは本当に嬉しい出来事でした。尚、この年は秋に全国校友大阪大会が「水の都なにわに集う駿台健児」をスローガンに大阪国際会議場で催され、今は亡き阿久悠さんも出席されており、「私の学生時代」というテーマでの講演等があり、奈良県支部からも25名が参加し、大いに氣勢のあがった年でもありました。

（その3）

今一つ忘れられない行事はマンドリン演奏会のことです。平成14年の定時総会の時に「そろそろ、マンドリンを又、やりますか」と言う声が自然に盛り上がり、平成14年10月マンドリン倶楽部第2回奈良演奏会実行委員会を設置し、準備に取りかかり、平成15年9月19日（金）に演奏会を行うことになりました。今回は奈良の中心に近い所と「県文化会館」を考え交渉に入りましたが、収容人員が1,300名のため諦め、1,500名以上収容可能な「なら100年会館大ホール」にお世話になることになったのです。

平成15年に入り「9.19.100年会館を満席に」を合言葉に実行委員会（約30名）の活動が始まり、3月より1回の打合せを実施、渉外部、広告宣伝部、入場券販売部、総務部、会計部の5つの部会を設置。例えば広告宣伝部会は、広告掲載の依頼、ポスターの掲示。入場券販売部会はチケットの販売。総務部会はポスター、入場券、チラシ等の作成、印刷。等となるのですが、何しろ素人の集団だけに実行委員会の皆様には本当に御苦労をかける結果となりました。

7月に入り、大学学生課よりマンドリン倶楽部派遣を承認する旨の連絡を受け、正式に奈良公演が決定し、同時にプログラム（演奏曲目等）も決定、出演学生メンバー（男子27名、女子18名、計45名）も内定し全てが整ったのです。

ここで私は出来ることならば、倶楽部監督の甲斐先生（以下先生という）にも来て頂き、同時に先生推薦のゲストをも呼び…と考えたのですが、当時の奈良県支部の財力が貧弱で不安でもあり、後々のことをも考慮し無理をせずに、先生に現状を話し相談した…結果、先生の「学生で大丈夫です」の言葉を頂き安堵し、今回はマンドリン演奏を心ゆく迄聴いて頂こうと考え、先生の指揮もゲストもなしとし、学生のみで挙行することにしました。

結果として少額ではありましたが大学への賛助もさせて頂くことが出来ました。

当日満席で盛り上がった客席を見、開演の幕が上がり校歌の演奏が始まった時は本当に

感動したと同時に「ホット」したものです。今でも実行委員会の皆様の御苦勞、御尽力には心から感謝しています。

(あとかき)

私は平成17年5月14日奈良県支部の定時総会で支部長を退任しましたが、挨拶の最後に「我々の校歌は世に誇る立派な歌です。どうか校歌は正しく歌って下さい」と言って退場しましたが、昨今、卒業式や神宮球場又は国立競技場で歌われているのを聴く限り、現役の学生は正しく歌っています。

安心し、本当に嬉しく思っているこの頃です。

今年も卒業式の季節になりましたが、卒業式の日みんな「白雲なびく駿河台…」と歌った感激は、55年経過した今も忘れていない。

平成 25 年 3 月 22 日
第 6 代支部長 塩川浩一